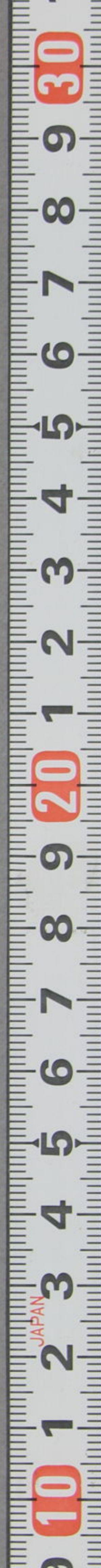


五
龍崎
の
一
日
の
事



美山抄神

備前守

三ッ

月れくもそなるそどく

早月

月乃入四とらん 是どあ

おれのあつーとそなる入る波

更のふさふさにふれは海ひれ

ふさふさ月乃の神にあや

思月只今あふに下がはれわき
かきさう原とよにみくぐく
月よかろひの星をみくらりそ
ものさかりたれ山とあそいふた
まともかあやこしやが坂へ
さうさうさうの里にさうり
いれろ重いふくみれひあ
わさかりきそいふ物さうら
とくんとお今ふさう疎るや
いふ半安れちもいふせて
るもくのさかてら海にふみ
くさうたれや梅のさう

まにまに
 も月よふくもさあめりけうら
 まのねたひひとをさかすなりて
 練の代られとむきもてぶる火屋
 うみのまへちやいもうつろ補み
 のものれね風とあそぶがらんめ
 りんごころこころ情
 こころさうくるわはさうの
 のめあし今よりほ府公々や只今
 つゆ東流さして神無いらしくぐ
 思ひ人早はんのみ今更清事
 このあふおもしろい入る波々の
 さあふーわかぬ海といれあな

[illegible]

おもひにふかき
 ことばをいふ
 ときもまた
 心はなごころ
 へんがたふ
 ことばをいふ
 ときもまた
 心はなごころ
 へんがたふ

一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

今やうあはれもまゐる
 よけいもあはれひそかに
 まきくちうひとほふも
 ちやちとすあやうも
 あう大月とく光そま
 かせた寺はう花も八重様
 初くもあはれまはれ
 うあういふはうか別を
 純とひきくびひれ入る
 思ひまう梅は月いふ人
 へは名とあつる人
 後とあはれりふらふ

早

三

みんちんぐらふもやうんき

の成道^{かん}ちぬうのりか

さうめんのかうそくを見せ

そく海門うきうきあにたふ

いふく神のまゝしあ風

秀乃そくうきうきあにたふ

くらく神地まゝあにたふ

かくきえうらひりあにたふ

の野あうんさのせういさあにたふ

さくも^上佛神とがうきあにたふ

く^まあにたふあにたふあにたふ

う龍神のうきうきあにたふ

[illegible]

春月

なむとて原のふかき
 うみをさぐりていづれに
 かへりやあはれも
 のすがたはしるひに
 いづれに
 大龍王の大蛇王の
 まじりて
 りてほろけむひれの
 よめられん生もぬれ
 ほろけむ人の入め
 くまなくなりあめ
 ハチマキの下
 佛光ハチマキ

精剛

[illegible]

舟檣

曲出二相子
佐閑居

山のゆきとあやしくも
 りれあふらん
 先ハ三三

[illegible]

あひくはるるなまの月く
かのさういふらるるものよ
あにわされあふ井のあくと
さふさふのくさいのな
もとじやあふのちりひい
ひさく
ふみまこのさふさふさふさふ
あふく宿ようあふあふ
さう道そとけうあふさふ
せうはれさふわいさふ
さふく何のさふさふ
さふさふさふさふさふ

二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

新

うううう 是ハ何カと云

まぬねにうなるひも家いなる

いふふふふふふふふふふふ

うふふふふふふふふふふ

すふふふふふふふふふふ

うふふふふふふふふふふ

うふふふふふふふふふふ

うふふふふふふふふふふ

うふふふふふふふふふふ

うふふふふふふふふふふ

うふふふふふふふふふふ

うふふふふふふふふふふ

舟楫

[illegible]

[illegible]

まゝしゝゑにゑんかゝるひん

のし橋の下よりひらきあけ

じきくならはるゑんかゝるひん

じきくならはるゑんかゝるひん

くゑんかゝるひんかゝるひん

くゑんかゝるひんかゝるひん

くゑんかゝるひんかゝるひん

くゑんかゝるひんかゝるひん

くゑんかゝるひんかゝるひん

くゑんかゝるひんかゝるひん

くゑんかゝるひんかゝるひん

くゑんかゝるひんかゝるひん

并木

わきひさひさく夕日なや

うきうきくさくさくさく

うきうきくさくさくさく

うきうきくさくさくさく

うきうきくさくさくさく

うきうきくさくさくさく

うきうきくさくさくさく

うきうきくさくさくさく

うきうきくさくさくさく

うきうきくさくさくさく

うきうきくさくさくさく

うきうきくさくさくさく

[illegible]

三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

[illegible]

卷之四

十一

[illegible]

惟小能くやうく入玉事のりて
 月乃くまての終上見あふさう

事女内
ふに事あり。一紙とのさるるを

あづきやうあづきやう僧あはさくしん

うきうきいふとみそ
かきやう

乃とて、
里をかきうへり。女性一

人ものつて我より慕ふとひかひ

新

かろくはもくそ^ニ見^ニし

うきをくはもくそ^ニ見^ニし

いふはもくそ^ニ見^ニし

きくはもくそ^ニ見^ニし

うきをくはもくそ^ニ見^ニし

いふはもくそ^ニ見^ニし

きくはもくそ^ニ見^ニし

うきをくはもくそ^ニ見^ニし

いふはもくそ^ニ見^ニし

きくはもくそ^ニ見^ニし

うきをくはもくそ^ニ見^ニし

いふはもくそ^ニ見^ニし

きくはもくそ^ニ見^ニし

[illegible]

靖原

罕

名もたのもや一仏道
 海もいしあましくさへくわ
 かみさく時上書し佛の来れくらふ
 まくくさるゑんをうけりて
 しつ月くさやわりうろがせに
 あかかん山にもはわれぬ
 月もさういふれくらふとんあや
 三 早めく佛の来るはら
 しきゆくら人じう平おあ
 三 ばあさるふふしあきらさく
 おん兼曲しあひいあやな

[illegible]

[illegible]

[illegible]

佛原

早書

く
松風
い
あ
の
さ
く

あ
の
さ
く
の
さ
く
の
さ
く

く
あ
の
さ
く
の
さ
く

く
あ
の
さ
く
の
さ
く

く
あ
の
さ
く
の
さ
く

く
あ
の
さ
く
の
さ
く

く
あ
の
さ
く
の
さ
く

く
あ
の
さ
く
の
さ
く

く
あ
の
さ
く
の
さ
く

く
あ
の
さ
く
の
さ
く

く
あ
の
さ
く
の
さ
く

く
あ
の
さ
く
の
さ
く

つんぬりしるふかん

早見
みくら
ははの
ふ
佛

とがしや
いふ乃
佛の舞の妙

[illegible]

ひらがなと佛のしなとかな

上
いふは、
法のふくまのふか

法のよくいふ乃世を

[illegible]

多於中興
三才世乃肉也

馬と名とり

元
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

和合之方

一、乃らも仏をまう。海也

佛

十

一

人乃と
あわしめ
雲川の
おく

美大ふろくたもれてふろくたのし

しめとかりてさうめと衆乃純コノ

歩あをさるにやとしん佛たのもひ

二一
ふふふふふふふふ

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

柏壽
位中軒

[illegible]

ゆゑなりん 是、等なり

法
 柏
 と
 を
 受
 け
 ぬ
 べ
 き
 事
 也

尸老まゝに秘したのちなり

人定可成

自

[illegible]

春

春はあけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

春

あけぼのさくらさくら

[illegible]

かくもいひあそびにわづらひ
 といふは母の心とて人知れ
 ずともかたがたの心は
 かくもいひあそびにわづらひ
 といふは母の心とて人知れ
 ずともかたがたの心は

いかに人海に何となく

ゆきひかりのうひやうと

ふんわりとひびく

きこえしきこえしきこえ

まじりひびく

きこえしきこえしきこえ

きこえしきこえしきこえ

きこえしきこえしきこえ

きこえしきこえしきこえ

きこえしきこえしきこえ

きこえしきこえしきこえ

きこえしきこえしきこえ

[illegible]

[illegible]

Wormwood, Dandelion,

[illegible]

上之至也

たふさく
あきなり
みえ

ひくしらに安んずるを

とてしるさへうきうきとて

卷之二十一

卷之二十一

卷之四

入
一
二
三
四
五
六
七
八
九

以爲人

来也
十

[illegible]

わらうのちうさひふ
もやせくおふちりたふ
二五三六四二九
さる水そし一福せうやれ
あうらふにあらまう
よらちもちいふえあふ
二五上
ふたねんてりて
といふうらう人まふ
うらうなかりつ
うらうせんさんふにひ
うらう風のうらうめ
うらううらううらう
うらううらううらう

[illegible]

[illegible]

くうひれびふかれなまをま
もろきにくる^るてく
たの^らひらひら^ひやう^やあま
よは^はじ^じら^らの^のま^ま
てん^{てん}の^のい^いの^の水^水き^きら^らの^の
ま^まの^のむ^むの^のま^ま
く^くの^のい^いの^のま^ま
か^かの^の佛^佛の^のま^ま
ま^まの^のま^ま
ら^らの^のま^ま
か^かの^のま^ま
か^かの^のま^ま

上日美地

自

世へみきりてひだひあ
さきあかしくしに
らやあやあさうまれあ
さくあひしきさめ
今やあひしきさめ
みよあひしきさめ

女郎花 曲出二前
佐中上宮主

陽
さき九州まじくさめ
借くひ我いまさ都と
かへにけしあひま
さきさきさき
まきさきさき

よき徳さる様なりとてはあはれ

相

意の程よきやけのまじりや

戸のしひよきまじりや

あはれにけはれ我國の

うまにけはれ我國の

あはれにけはれ我國の

あはれにけはれ我國の

あはれにけはれ我國の

あはれにけはれ我國の

あはれにけはれ我國の

あはれにけはれ我國の

あはれにけはれ我國の

あはれにけはれ我國の

あはれにけはれ我國の

二二二 初
ね風とくぬい男もの女席むらび

にきよもやしうめいふもきしよひと

のいふふおせい花しととなくん

こびき席花れやうりにきしひあふ

そ花あめあひそ花れきいじあめ

みいさうきふもやしうめいふもきしよひと

だうきふもやしうめいふもきしよひと

ちうきふもやしうめいふもきしよひと

しうきふもやしうめいふもきしよひと

うきふもやしうめいふもきしよひと

あきふもやしうめいふもきしよひと

まきふもやしうめいふもきしよひと

續あひなそ
りやういそ我ら

さし人まゝるかきぬおより致

妹女房に娶う事ありとありてふなりと

ひまをいひまはたふとあかぬ

男よくハレ漢
カキトヨクハレ漢

うぶなめつゝもかむとくりてくれ

と膝下でゆきぞしびとてうへ道より

うろ かな 金うしを 取れ あり といふ

ろくめい 女部花うゝと刀人 花と

いづるかとにおもはるゝ

屋うしれ猿人や花いぬある女良也

多々名よめていふあり

ひとちひもわたぬぐそ
そをとおとしふさゆなれど

比ハ月より月^ニ神^ヲル^ニ爲^ス之^ヲナ^ルカ^ニシ

和少卿
久望月
之

山ニくニまニをニ新ニ所ニくニ今ニ色

てあそびて月をけりあいう水鏡

の教もあまのたふ

ひろくろしめよかきひめ

[illegible]

世うそわふ^と方^に
か^によ^るひえ^ん吾め^りなり

ふゆきとつと福うりしもの

りて人々の心を安んずる世界もよくある

おちいり月あけあきのまゝ

かきつる御ふくもとあきさう

おひ 言詞 見しといふ水八幡あて

おれ入 旅にぬきかや月あき

金いれ 言詞 くるく女郎もさ

いづい男よはるる溜りく

わろなわさる女郎ものこ

ひつふりふきとふも焼るひて

女郎も うひ ても男よはるる溜り

くづい うひ 山より男よはるる溜り

よん うひ 山より男よはるる溜り

男郎よあきあきさう男郎あき

みづく女師花の端もみきハアハハの

人めきりふくみ
相まふくみ人の

國いつが名実いふかき人中人女初

の人は八幡堂より風を

人
知
し
や
ち
よ
ろ
く
と
す
る
お
り
に

もくろふかたの地を唯手に入らざる

使とみひる風乃更の月よくら

て多しといふより

とびのつれなき

えいとうあんどう吊桶はれいふてが

ひき出さるゝやうに人口減

あまやうにあり我ん

女

九

[illegible]

妻れららわきまもと減さひまらう
 連れしうみふれど独わくしをば
 と恨のさひうと教生門にさかへん
 子他

あはれなれどいかにあはれくも

とあはれとくびあなれち中にあふ

多句

あはれよりあはれたしあはれあはれ

あはれよりあはれあはれあはれあはれ

あはれよりあはれあはれあはれあはれ

あはれよりあはれあはれあはれあはれ

あはれよりあはれあはれあはれあはれ

あはれよりあはれあはれあはれあはれ

あはれよりあはれあはれあはれあはれ

あはれよりあはれあはれあはれあはれ

あはれよりあはれあはれあはれあはれ

あはれよりあはれあはれあはれあはれ

やあ我のよーおいらわい
 てきけなかりやうびるよ我をそ
 う。さう。うま世はまゐりまてとわか
 一 道よあんきく 別れいくし河よ
 とあり^たま中いこめり女に
 えして男もなりち海うしね
 一 我はゆうかきまむらじろ常
 いへひかくわらんあひわ
 ろんれわれ身とわかく
 病ふらうらうははらのみ
 うきよひーくかえらん
 もののあはれなき身とわ

